



魔術的リアリズムの国、南米コロンビアの魅力を知る



10月22日(火)

“魔術的リアリズムの国”南米コロンビアってどんな国？
その魅力を紹介:コロンビアの魅力—産業、文化、観光、食文化等

ファン・カミロ・ゴメス

(駐日コロンビア大使館商務参事官)
(コロンビア投資貿易観光振興機関日本代表)

豊かな自然と活気に満ちた都市が融合するコロンビアの色々な側面を皆さんと一緒に発見したいと思います。ダイナミックな産業や投資、世界中を魅了する活気に満ちた文化、夢のようなビーチから壮大な山々に至る多様な観光についてもご紹介します。さらに、コロンビアにしかないオリジナルの味と伝統的な驚きのある美味しい料理も紹介します。美を生きる国、コロンビアに心を奪われることは間違いありません。



コロンビア大使館の商務参事官は、法律、貿易、金融において豊富な経験があり、シティバンク、三菱UFJ銀行、BBVAで勤務した経歴があります。コロンビアのロスアンデス大学でMBAを取得し、金融法および商法の専門資格を有しています。国際商取引関係を促進し、コロンビアと日本の二国間経済成長を推進するリーダーとして活躍しています。

11月12日(火)

知られざるコロンビアの素顔—その魅力と歴史

寺澤辰磨

(日本コロンビア友好協会会長)

1. ニコラス・タンコ・アルメロの訪日とその生涯：旧暦明治4年11月、コロンビア人が横浜港に着いた。彼は、初めてスペイン語で維新後の日本紀行を出版した人物であるが、彼が訪日するに至った経緯とコロンビア社会をその生涯を振り返りながら紹介する。
2. コロンビアの政治・経済・社会の特異性とその魅力：コロンビアといえば治安の悪さが直ちに想起されるが、その原因とそのイメージが定着した理由とともに、そのような社会状況の中で経済的安定成長の奇跡と、民主的な政治体制を構築してきた憲政史を紹介する。
3. 我が国との外交関係：1908年の友好修好条約の締結とその後の移民の歴史について紹介する。



1947年、島根県生まれ、東京大学法学部、1971年7月大蔵省(現・財務省)、2001年7月理財局長、2003年7月国税庁長官、2004年7月独立行政法人都市再生機構理事長代理、2007年7月駐コロンビア共和国特命全権大使、2011年6月(株)横浜銀行代表取締役頭取、2016年4月(株)コンコルディア・フィナンシャルグループ代表取締役社長(2018年6月退任)。2012年9月日本コロンビア友好協会会長。

11月26日(火)

魔術的リアリズム作家ガブリエル・ガルシア＝マルケスの作品と波乱に富んだ人生

木村榮一

(スペイン文学・ラテンアメリカ文学翻訳者)
(神戸市外国語大学名誉教授)

イスマノアメリカの総称で知られる新大陸のスペイン語圏の国々では、1960年代後半からすぐれた作家、詩人が次々に登場してきて、世界の文学に撃を与えたことは記憶に新しい。中でもコロンビアの作家で、1983年にノーベル文学賞を受賞したガブリエル・ガルシア＝マルケスは、独自の幻想性をたたえた筆致である一族の歴史をたどった小説『百年の孤独』によって世界中の読者を魅了、驚嘆させたことはよく知られている。今回の講演ではこの作家を中心に20世紀のラテンアメリカ文学を概観できればと思っている。



1943年、大阪市生まれ。スペインおよびラテンアメリカ文学の翻訳家。神戸市外国語大学イスパニア学科卒、同大学教授、学長を経て、現在、神戸市外国語大学名誉教授。主な著書に、『ラテンアメリカ十大小説』(岩波新書)、訳書にコルタサル『悪魔の涎・追い求める男』、バルガス・リョサ『緑の家』(以上岩波文庫)、ガルシア＝マルケス『コレラの時代の愛』(新潮社)、ジェラルド・マーティン『ガブリエル・ガルシア＝マルケス ある人生』(岩波書店)などがある。